

## 東京大学先端科学技術研究センターと協同で RFID技術を応用した 喚語障害リハビリ支援システムを商品化に向け開発

情報管理サービス業のトッパン・フォームズ株式会社と東京大学先端科学技術研究センター（所在地：東京都目黒区駒場、所長：橋本 和仁）の中邑 賢龍特任教授は、RFID技術の福祉機器への応用について協同で研究を行っています。今回初めての成果として、喚語障害リハビリ支援システムを開発しました。

喚語障害とは、失語症において高率に発症する障害で、脳では理解できていても言語表現ができない状態をいいます。これは高次脳機能障害（脳卒中や感染症などの病気や交通事故、転落等で脳の細胞が損傷されたために言語、思考、記憶、学習等の面でおこる障害）、高齢者、発達障害などによっておこります。日本言語聴覚士協会（国家資格で、ことばによるコミュニケーションに問題がある人の訓練を支援する。）の1997年の実態調査では、全国の失語症患者33万人のうち12万人が、言語発達遅滞者87万人のうち11万人が訓練を必要とするといわれています。

今までのリハビリは、写真やカードなどを提示し視覚情報を反復して発声する方法がとられ、その際にできる限り豊富な手がかり情報を提示し、正しい喚語を促していました。

開発したリハビリ支援システムは、事前にID登録されたICタグを、生活で使用するあらゆる物に貼り付け、手首につけたリーダーを近づけることで、音声再生と画面に文字を表示させます。触覚、聴覚、視覚に訴え、3つの感覚でことばを想起させることによって従来の方法に比べ、教育訓練効果の向上が期待できます。実際の医療現場で患者さんや医療スタッフの意見を参考にしながら、更に改良を重ね1年以内の商品化を予定しています。（発売価格は未定。）

今後も、当社と東京大学先端科学技術研究センターは、福祉現場でのRFID技術の可能性を研究し、クオリティーオブライフの向上に貢献します。

以上

トッパン・フォームズ株式会社 広報室

本社：東京都港区東新橋1-7-3

TEL 03 (6253) 5730 <ダイヤルイン>

FAX 03 (6253) 5629

ホームページアドレス：<http://www.toppan-f.co.jp/>

